

警察署協議会議事録要旨

協議会名	宮城県塩釜警察署協議会
開催日時	平成30年2月28日（水）午後1時57分から 午後5時30分まで
開催場所	宮城県塩釜警察署3階会議室及び宮城県警察本部
出席者等	1 協議会委員側 会長以下10名 2 警察署側 署長以下13名
議事概要	<p>1 開会 協議会委員10名の出席により、協議会の成立を確認した。</p> <p>2 挨拶 会長 過日2月7日、24警察署の代表者会議が行われました。その会議の中で、組織犯罪の話では、私が住む身近にも犯罪組織があるということを認識しました。また、仙台南警察署の事例発表では、凧の会に所属する協議会委員が、地域で凧を作り飛ばし、特殊詐欺被害防止の啓発を行ったということが、特に印象に残っています。</p> <p>署長 当署も今年1月に入り、トップギアの状態、大変忙しい時期を過ごし、もう2月かという感じです。皆さん承知のとおり、犯罪認知件数、交通事故死者数が、戦後最小を記録している報道を、耳にしていると思いますが、当署管内も同じような傾向にあります。その一方で、昔にはなかったような事案が、増加している状況にあり、管内の実態に即した対策を行うのが、一番の抑止、検挙対策であり、そして、この協議会の場で、委員の皆様から、御要望、御提言をいただくことが、大変重要なものだと受け止めています。</p> <p>3 管内の治安情勢について（署長） 平成29年中の刑法犯の認知件数、検挙件数は、前年比でいずれも減少しています。平成29年中の人身交通事故、物損交通事故の総数は、減少したものの、交通死亡事故が1件増加しました。平成29年中の、特殊詐欺全体の発生件数、被害金額は、前年比でいずれも減少しています。</p> <p>委員 刑法犯の認知件数、交通事故死者数が、戦後最小であると話がありました。統計の不備はないと思っていますが、その辺はどうでしょうか。また、それぞれ戦後最小となった要因については、追究しているのでしょうか。</p>

署長 過去に統計計上の仕方が、不誠実であったことで、問題事案が発生したこともありましたが、減らすための計上とか、作為的なことで行っていることはないということを、御理解いただきたい。犯罪の認知件数は、警察だけでなく、社会全体での対応で、減少していったことが要因と思います。また、交通事故死者数も、警察の取締りだけでなく、交通環境の整備、車の緩衝構造の向上、医療の進歩を含めての減少であると思います。

委員 署長から、犯罪等の減少は、地域の方々の意識ということも、大きく実ってきている要因にあると話をしていただきました。協議会でも、今後、当署管内で問題となっている高齢者交通事故、少年事件、特殊詐欺について、意見をいただき、協議できたらと思っています。

4 協議事項（諮問事項）

(1) 速度取締り指針について（交通課長）

交通事故の実態、交通環境等を踏まえ、昨年9月に示した速度取締り指針の見直しを行い、速度取締り重点エリアと、重点時間帯を変更しました。

委員 交通事故の発生原因で、動静不注視というのはどういうことでしょうか。

課長 見てはいるのですが、視界に入っても、注意が散漫になっているような状況を言います。

委員 前方不注視で、内在的、外在的とはどういうことでしょうか。

課長 外在的は、直接的に動作が加わったことを、内在的は物事を考えることを言います。

(2) その他意見・要望・提言等について

委員 過去に人事異動で、幹部1人以外全員異動したことがありましたが、あまり好ましくないと思います。

署長 仮に大幅な異動があっても、これまでの皆さんの意見というのは、確実に引き継いでいきます。

委員 警察官は、強面でいかついイメージですが、今の若い警察官は、普通のお兄さんという感じで、凶悪犯と対峙した時に戦えるのかと思っています。

署長 署員の35パーセントが、30歳未満の警察官です。若手警察官育成が大きな問題で、OB等の伝承教養でレベルアップを図っていこうと思っています。

5 次回の開催予定

次回会議は、平成30年6月に開催します。

6 閉会